

スマートシティ「つくばモデル」構築プロジェクト（つくばスマートシティ協議会）

■都市課題

- ・中心部の交通渋滞防止
- ・持続可能な地域公共交通網の構築
- ・高齢者等の交通弱者の移動手段確保と外出促進

■解決方策

- ・移動総量及び交通手段別の移動量把握
- ・交通空白帯の解決
- ・交通弱者を含む方に対する持続可能な地域交通網の構築

■KPI

- ・日常利用する交通手段の自家用車の割合
(2019年度 85.8% → 2024年度 83.5%)
- ・高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると感じる人の割合
(2019年度 31.4% → 2024年度 34.4%)

■実証実験の概要・目的

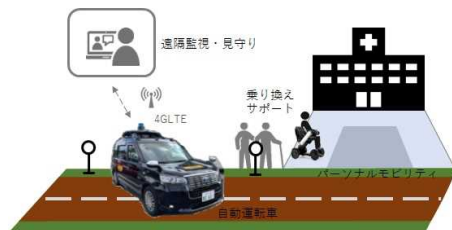
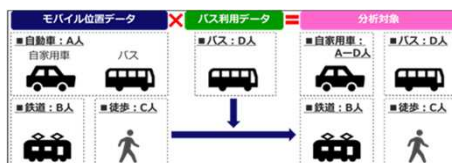
交通需要把握手法の有用性、及び自動運転車とパーソナルモビリティ運用の有用性・安全性の確認を通して、「スマート・コミュニティ・モビリティ」サービス(各交通関連手法・技術が一体となった移動支援)の実装に向けた課題や今後の展望を整理

■実証実験の内容

- ①位置情報分析による交通需要把握 (人流・交通空白地帯の把握) ②遠隔モニタリング・自動運転車による拠点間移動 ③低速度パーソナルモビリティの安心・安全性検証実証実験



- ①モバイル位置データ (GPS・基地局) 及びバスのIC利用データを組み合わせた移動実態を分析
- ②住宅地から目的地までを移動する自動運転車と、ラストワンマイルの移動手段として利用可能なパーソナルモビリティを一体的に運用
- ③ラストワンマイルの移動手段であるパーソナルモビリティの安心性等に対する認識を確認



■実証実験で得られた成果・知見

- ・モバイル位置データとバスICデータを組み合わせることで、バス交通空白地帯を明らかにすることが可能。今後、これらのデータを活用してPDCAを中・長期的に回していくことが必要
- ・現況技術の自動運転運行において、NPS評価は75.0(100から-100のスコアリング)という高い評価が得られ、サービスの有用性を確認
- ・アンケート調査結果等から、つくば市はパーソナルモビリティに対する周囲歩行者理解が高いことを確認



自動運転によるコミュニティ・モビリティ



パーソナルモビリティ

■今後の予定

- ・R3: 交通弱者等の受診支援を行う「つくば医療MaaS」におけるスマート・コミュニティ・モビリティの実証
- ・R4: 「つくば医療MaaS」を発展させる周辺サービスの実証と運用フェーズの実証
- ・R5以降: 既存のデマンド交通見直しにあわせて社会実証・社会実装を実施